



公明党
なかむら
中村

つとむ
努

コロナ禍の現状と終息見込み、豪雨災害対策

その他の
質問事項

- ▼ 新型コロナ感染症医療体制と治療薬
- ▼ 避難所のバリアフリーとWi-Fi整備

◆コロナ禍の市長認識
問 現状と終息のイメージはどうか。

答 全国的にデルタ株の広がりにより爆発的な感染拡大に直面しており、医療崩壊が現実のものとなっている。本市においては、新規陽性者が確認されているが、ある程度コントロールできる範囲に収まっている。希望者のワクチン接種が11月の早い段階には終了する見込みであり、治療薬の研究が進み、今後、ウィズコロナとして、過度に自粛をお願いするのではなく、できる限り従前の日常生活に近づけ、社会経済活動を力強く進めていけると考えている。

(市長)

◆設置補助見直しはどうか
答 国道から檜川支所に繋がる市道にボックスカルバート、東側山林に砂防堰堤、溢水地に集水桝の設置を考えている。地

場産センター付近の土砂崩れを起こした沢は「大崩沢」といい、災害を繰り返している。国・県・JR東海と協議し、砂防堰堤整備、JRのボックスカルバート口径変更等の対策を要望する。防災無線難聴世帯は屋外拡声子局からの音量に応じ、全額又は半額の個別受信機設置に対する補助を行っている。音量のみならず、聞こえにくい場合は、現地調査を行い検討する。

(建設課・危機管理課)

◆檜川地区の豪雨災害
問 国道19号線檜川診療所交差点付近の溢水、地場産センター付近の土砂崩れの抜本対策、防災無線の難聴世帯個別受信機



土砂崩れの大崩沢

議員提案の塩尻市手話言語条例制定に向けて

その他の
質問事項

- ▼ 道徳教育について
- ▼ 介護人材確保に向けて



新政会
ほしご
樋口千代子

◆塩尻市手話言語条例制定に向けて

問 塩尻市議会では、手話言語条例制定に向け検討を進めている。本市における、手話への理解の促進及び普及に関して現状の取り組みは。

答 福祉課では、聴覚障がい者が安心して相談できるよう手話通訳者を1名配置している。福祉課職員も十数年前から朝礼時にミニ手話講座を開催し挨拶や自己紹介のほか、窓口での対応、案内を想定した手話を学び実践している。

問 条例が制定された後、手話への理解及び普及を推進していくため、人権教育の充実を希望するが、担当する部署は。

答 地域共生社会を実現することにありと理解している。条例案の内容が具体化することによって、所管事務も明確になるので、組織の検討を進めていく。

(福祉課・企画課)

◆新型コロナワクチン接種について

問 65歳以上の高齢者の方で、在宅の一人暮らし及び高齢世帯等で、接種会場へ付き添う方がいない、または、移動手段等が困難な方への接種は終わったと理解してよいか。

答 8月末時点、65歳以上の高齢者の2回目の接種率は、90%以上となっていることから希望する方は、ほぼ終了したと認識している。順調に進んだのは、関係機関、関係職種のご協力と感謝申し上げます。

(ワクチン接種推進室)



議員研修会の様子
(手話言語条例制定について)